OWNER'S MANUAL

Acoustic Wave® music system II

取扱説明書

この度はAcoustic Wave music system II をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機を正しくお使いいただくため、ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。また、必要なときにご覧になれるように大切に保管しておくことをおすすめいたします。合わせて箱や梱包材も、後日修理メンテナンス等が必要になった場合のために保管しておくことをおすすめします。

※説明の便宜上、イラストは実物と異なる場合があります。

目次

安全上の留意項目

ご使用前に、この「安全上の留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。

絵表示について

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

 注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示します。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

△記号は注意を促す内容を告げるものです。
（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

	電源プラグをコンセントから抜け	●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。 ●万一内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 ●万一内部に異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
		●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	水場での使用禁止	●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
警告		**乾電池を使用する機器のみ** ●乾電池は、充電しないでください。電池の破損、液もれにより、火災・感電の原因となります。
		ボタン電池を使用する機器のみ ●この機器に使用しているボタン電池を取り外した場合は、小さなお子様がボタン電池をあやまって飲むことがないようにしてください。電池は幼児の手の届かないところへおいてください。万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。
	使用禁止	●雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。
		●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。 ●この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。 ●この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。
		●万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

警告

●この機器の背面にある、通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。
この機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪いところに押し込む。
テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。

●この機器を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて火災・感電の原因となります。
●この機器の通風孔、ディスク挿入部などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
●この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合火災・感電の原因となります。

分解禁止
●この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。
●この機器は改造しないでください。火災・感電の原因となります。

●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

注意

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
●ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
●電源コード、スピーカーコードを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
●窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災・感電の原因となることがあります。
●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●電源を入れる前には音量（ボリューム）を下げておいてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。
電池を使用する機器のみ
●電池を機器内に挿入する場合、極性表示プラス ＋ とマイナス − の向きに注意し、表示通りにいれてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

●旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
●お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

●5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長時間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。
●アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
※送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

●長時間音が歪んだ状態で使わないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

●ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げ過ぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

あなたが放送やCD、テープ、又はビデオディスクや市販のソフトから録音や録画したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。

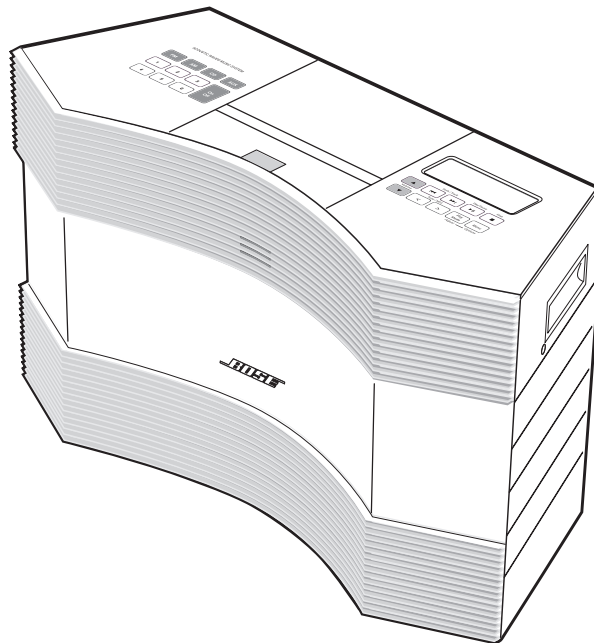
本体のお手入れについて

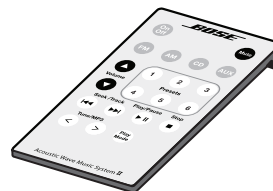
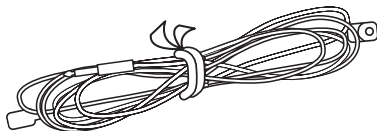
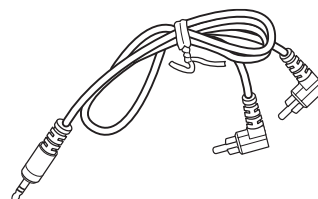
通常は、柔らかい布でから拭きをしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤を水で薄めた液に柔らかい布を浸し、よく絞ってから汚れを拭きとり、その後、乾いた布で拭いてください。シンナー・ベンジン・アルコール、化学薬品を使用すると表面が侵されたり、文字が消えたり、外装ムラになることがありますから絶対に使わないでください。また、スプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。

開梱時のご注意

付属品を確認してください

もし、開梱時に損傷などが発見された場合や内容物が不足しているときは、そのままの状態を保ち、ただちにお買い上げになった販売店か取扱店までご連絡ください。そのままでのご使用はおやめください。また、箱や梱包材は、後日の修理メンテナンス等が必要になった場合のために保管しておくことをおすすめします。

Acoustic Wave music system II

電源コード 1本

リモコン

※付属のリチウムボタン電池は、動作チェック用として既にリモコンに装着されています。消耗していた場合は、新品電池と交換の上ご使用ください。

FMアンテナ 1本

ϕ3.5mmステレオミニプラグ付
オーディオケーブル(1.7m) 1本

便利な機能

● FMステレオ、AMチューナー内蔵

FM/AMそれぞれ6局のプリセットが可能なチューナーを内蔵しています。
※本機はAMステレオ放送には対応しておりません。

● アナウンサーの声を聞きやすくする“トークラジオモード”

ラジオ局によっては小型の機器でも迫力がでるように意図的に低域を増幅している場合があります。このような放送局のアナウンスもすっきり聞こえるようにできる“トークラジオモード”を装備しています。

● MP3ミュージックファイルの再生

Acoustic Wave music system II はCD-R、CD-RWに音楽を圧縮して記録したMP3ミュージックファイルを再生することができます。MP3ミュージックファイルにすると1枚のCD-R/RWに音楽CD 8〜10枚分もの曲を記録できます。MP3ミュージックファイルの作成についてはパソコンの操作マニュアル等をごらんください。

● CD/MP3CDのシャッフル、リピート再生

ディスク内の曲を順不同に再生したり、MP3ミュージックファイルを整理してあるフォルダー内で順不同に再生できます。ディスク全体、ファイル内のリピート再生ができます。
また、シャッフル再生とリピート再生を組み合わせて使用することもできます。

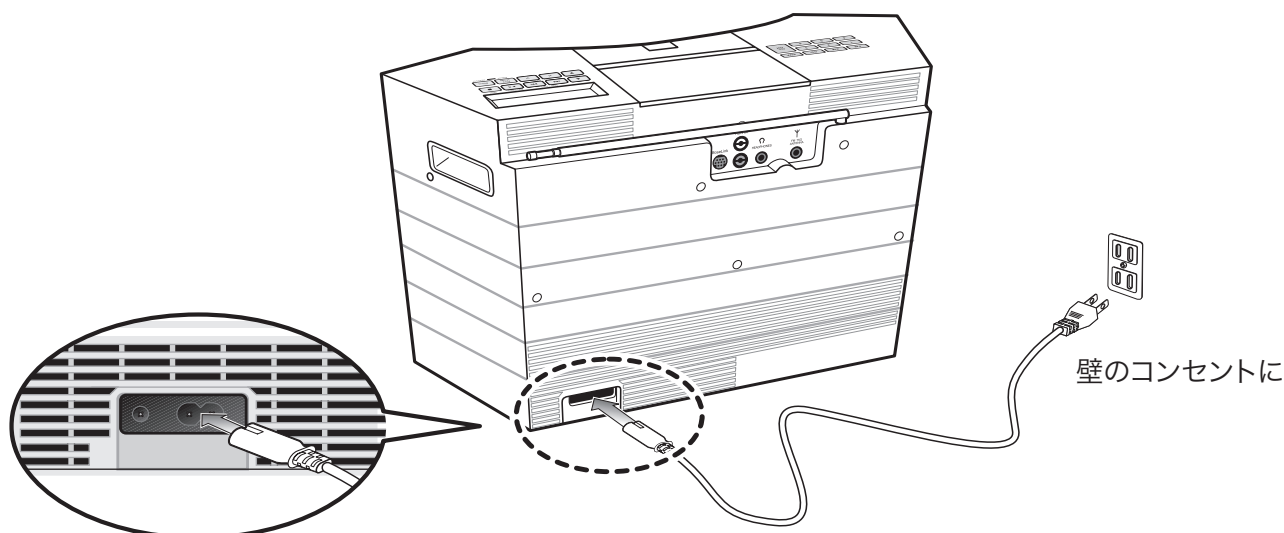
● ヘッドホン/ラインアウト切換え可能な出力端子装備

セットアップメニュー（29ページ参照）を開いてヘッドホン端子から出力される信号を2通りに切り換えることができます。

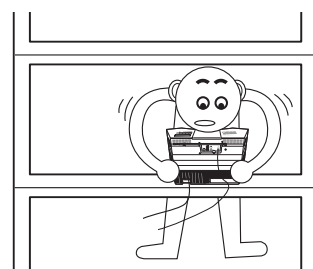
・**ヘッドホン設定時**：プラグを差し込むと本体からの音が止まり、音量調節に連動した音声信号が出力されます。通常のヘッドホンを使用するときはこの設定にします。

・**ラインアウトプット設定時**：プラグを差し込んでも本体からの音は消えません。また、本体の音量調節に関係なく一定のレベルの音声信号が出力されます。外部にアンプとスピーカーやアンプ内蔵スピーカーを接続するときはこの設定にします。

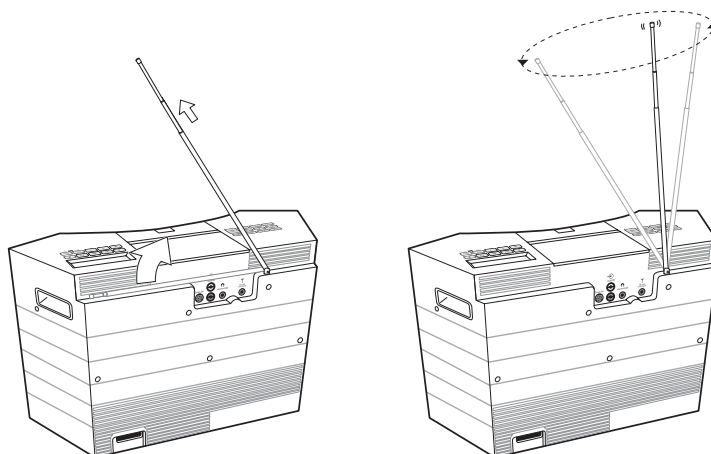
電源コードの接続

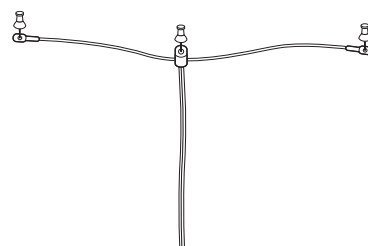
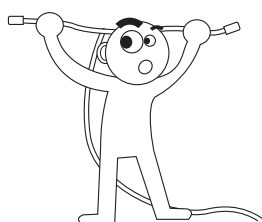
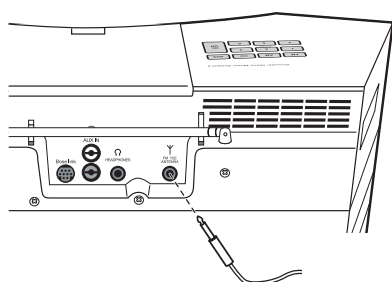
電源プラグを電源コンセントにしっかりと奥まで確実に差し込んでください。

FM／AM放送の快適な受信について

AM放送のアンテナは内蔵されています

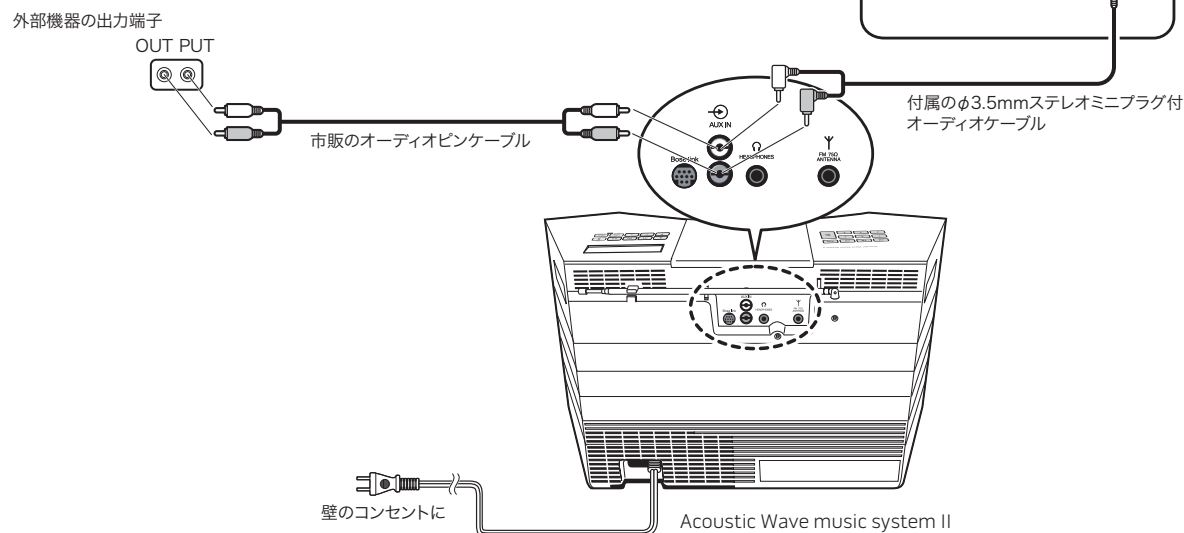
AM放送を受信するにはアンテナが重要な役割を果たします。内蔵されているAMバーアンテナは、比較的ノイズに対して有利ですが、できるだけ本体とノイズ源（パソコン、蛍光灯、マイコンを内蔵している電気機器等）から50cm以上遠ざけて設置するようにしてください。また、本体の向きをいろいろ試して、感度がよくなる方向に向けて置いてください。

FM放送のアンテナについて

・ロッドアンテナによる受信

FM放送の受信は、都市部や、都市近郊などの比較的電波状況の良い地域では、本機のロッドアンテナで十分受信できます。ロッドアンテナはいっぱいの長さまで伸ばし、最もよく受信できる角度に調整してください。

・外部アンテナによる受信

ロッドアンテナではどうしてもよく受信できないときは、外部アンテナを接続してください。お住まいが近郊の場合、本機に付属されているT型アンテナを使用します。T型アンテナは、押しピンなどで壁などに固定して使用します。丸めたままにしておいたり、垂らしたままにしないで、必ずT字型に伸ばして、複数の放送局の受信状態が最も良くなるように、方向や設置位置を決めてください。それでも感度が不十分な場合は、お近くの電気店にご相談になって、屋外アンテナを設置するか、アンテナ・ブースター（電波の増幅機）等をご使用になることをおすすめします。ブースターをご使用になるときは、ブースターの取扱説明書をよく読んでご使用ください。

外部の機器との接続

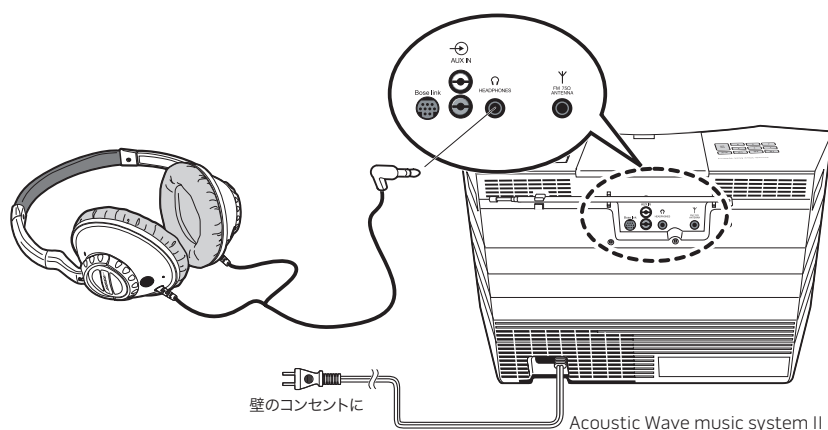
AUXに外部機器をつないでください

背面のAUX INに付属のオーディオピンケーブルを使って、
外部の機器の出力端子と接続します。
※本体の電源をONにしても、外部の機器は連動しません。

外部の機器との接続

ヘッドホンジャックについて

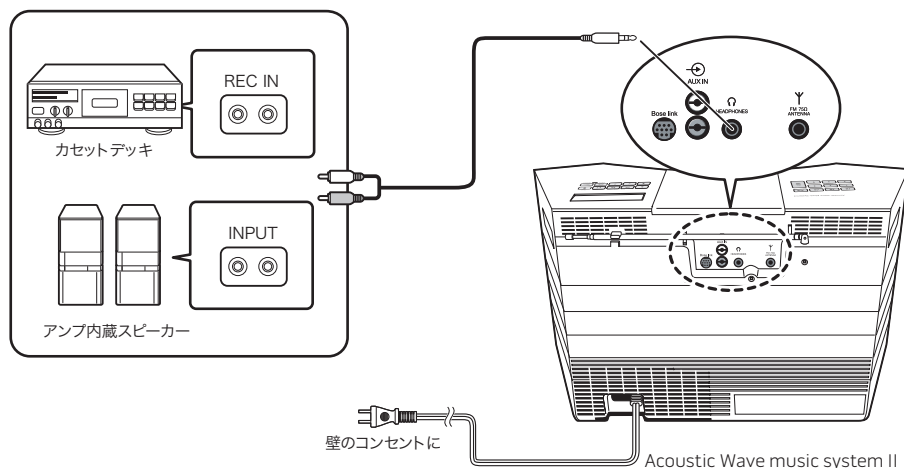
ヘッドホンジャックから出力される音声を本機のボリュームに連動するヘッドホン用と、ボリュームに連動しない外部出力用に切り換えて使用できます。
※工場出荷時の設定はヘッドホン用になっています。

● ヘッドホンを使用するとき

システムセットアップメニューを開いて、ヘッドホンジャックを「HEADPHONES」に切り換えます。ただし、お買い上げ時点での初期設定はヘッドホンになっておりますので、切り換える必要はありません。設定の変更の仕方は29ページを参照してください。

・プラグを差し込むと本体からの音が止まります。ボリュームボタンで音量を調整してお聞きください。

⚠ **注意** ヘッドホンをご使用になるときは、音量にご注意ください。あまり大きな音で長時間ご使用になりますと耳を痛める場合があります。耳を刺激しないよう適度な音量でお楽しみください。

● アンプ内蔵スピーカーや録音機器を使用するとき

システムセットアップメニューを開いて、ヘッドホンジャックを「LINE OUTPUT」に切り換えます。設定の変更の仕方は29ページを参照してください。

・「LINE OUTPUT」に設定すると、プラグを差し込んでも音は止まりません。また、音量を変えても、出力される信号のレベルは変わりません。

設置場所について

● 安全上の設置時のご注意

- Acoustic Wave music system II は、しっかりとしたテーブルなど、平坦な場所に設置してご使用ください。
- Acoustic Wave music system II を金属板の上に設置しないようにしてください。ラジオの受信感度が低下することがあります。
- 電子レンジ、コンピューター、ビデオデッキ、テレビなどの電子機器の近くに設置しないようにしてください。電子機器からのノイズでラジオの受信感度が低下することがあります。
- 湿気やほこりの多いところには設置しないようにしてください。内部に湿気やほこりが入り込むと火災や故障の原因となります。
- ゴム足は素材の性質から、設置面の塗料によっては、移行または汚染を示す可能性があります。事前にご確認のうえご使用ください。
- 付属のゴム足は高摩擦性を有している分、塗装面との接触面に密着しやすい性質を持っております。接触面の一部を剥がしてしまう可能性も有りますので、事前にご確認のうえご使用ください。

● より良い音を楽しむための設置時のポイント

- 本機は床に直接置くよりも、棚やカウンター、机、テーブルなど、床から75～120cmの高さで使用した方がよりよい効果が得られます。
- Acoustic Wave music system II を設置する場合は、部屋の隅や壁から離しすぎないほうが（約15cm以内が目安）、豊かな低音が得られます。
- 低音が少なく感じる時は部屋の隅に近づけます。
- 低音が大きすぎる時は部屋の隅から離してください。

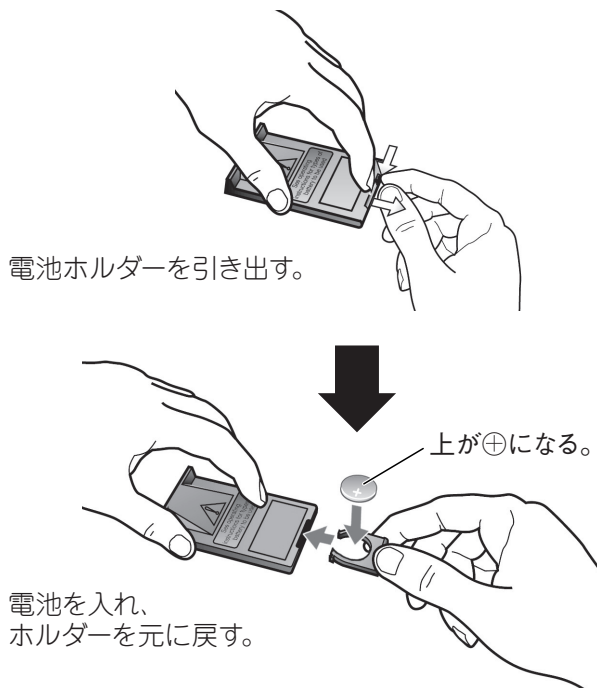
防磁について（ブラウン管方式のテレビをお使いの場合）

Acoustic Wave music system II は、防磁処理が施されていませんので、ブラウン管方式のテレビやモニターなどに近づけると、画面に色ムラなど影響が生じる場合があります。その場合はテレビやモニターから本体を十分離し、テレビの電源を切り、15分から30分の間隔をあけてから再度テレビの電源を入れてください。テレビの自己消磁機能によって、正常な画面に戻ります。その後も、画面に影響が生じる場合には本体をさらにテレビから離してご使用ください。

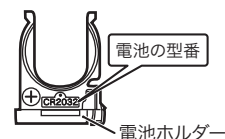
リモコンの使い方

電池の入れかた

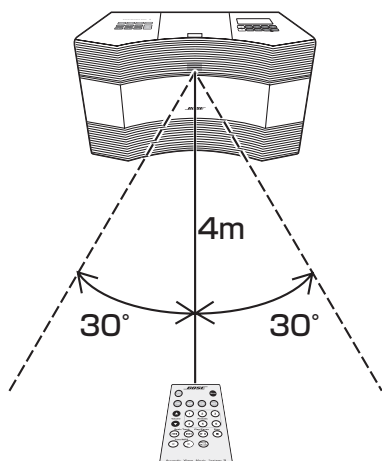
電池ホルダーを引き出す。

電池を入れ、
ホルダーを元に戻す。

電池を交換する場合は、電池の型番にご注意ください。

使用電池

3Vリチウムボタン電池
CR2032またはDL2032

⚠ 注意

リモコン用の電池は正しい取り扱いを行わない場合、火災を起こしたり、化学物質で皮膚をおかされる結果となることがあります。幼児には触れさせないように十分ご注意ください。また、分解や充電、焼却を行ったり100度以上の熱を与えないようにしてください。交換の際には指定の電池のみをご使用ください。異なる製品を使用した場合、火災や爆発の原因となることがあります。

リモコンの動作範囲

リモコンの電池が消耗すると、リモコンの動作範囲が狭まってきて効きが悪くなってきます。このような症状がでてきたら、リモコンの電池を交換してください。電池を交換する場合、電池の型番にご注意ください。違うタイプのものをご使用になると、動かないばかりでなく機器の故障の原因となりますので、必ず同じ型番の電池をご使用ください。

⚠ 注意

・リモコンと本体受光部の間に障害があったり、受光部との角度が悪いとリモコン操作ができない場合があります。

・赤外線を放射する機器の近くで使用したり、赤外線を利用した他のリモコン装置を使用したりすると誤動作することがあります。また逆に、赤外線で操作する他の機器を使用時にこのリモコンを使用すると、その機器を誤動作させることがあります。

・直射日光や、蛍光灯の強い光が直接リモコン受光部に当たると、リモコンで操作できないことがあります。そのようなときは、設置場所を変えたり、蛍光灯を離してください。

リモコンボタンの名称と使い方

AMボタン

ラジオのAM選択します（26ページ）。

On／Offボタン

本体の電源をオン／オフするときに使います（16ページ）。

FMボタン

ラジオのFM選択します（26ページ）。

Volume（ボリューム）ボタン

音量を調節するときに使用します（17ページ）。

Seek／Track（シーク／トラック）ボタン

CD、MP3CDを聴いているとき（22ページ）

CD、MP3CDのトラックやファイルを選ぶときに使用します。

ラジオを聴いているとき（27ページ）

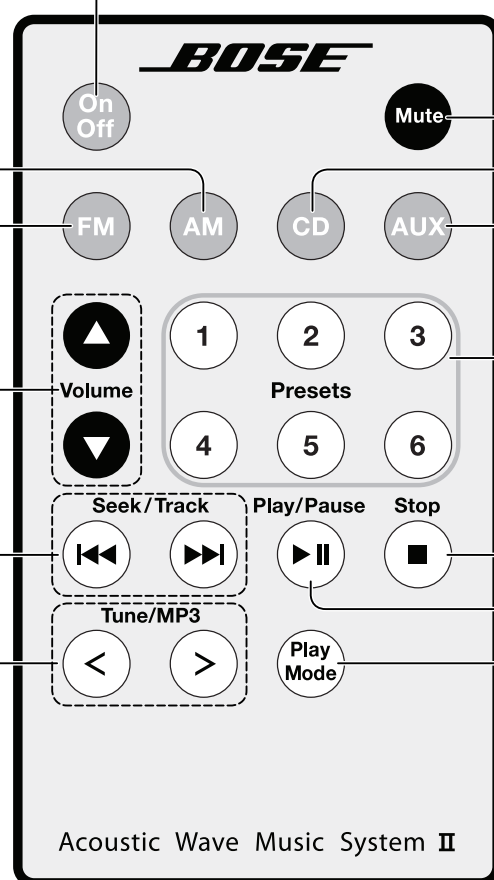
1回押すと十分受信できる強さの電波の放送局を自動的に選局します。

Tune／MP3（チューン／MP 3）ボタン

CD、MP3CDを聴いているとき（24ページ）

押し続けると早送り、早戻しができます。
MP3CDの場合は、小刻みに押すと、フォルダーを選ぶことができます。

ラジオを聴いているとき（27ページ）

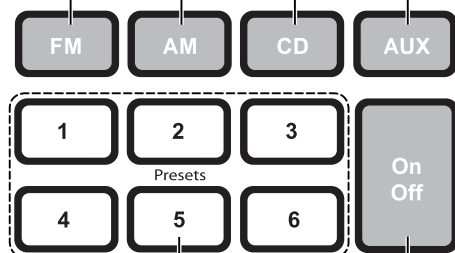
小刻みに押すか、あるいは押し続けてお好きな放送局を選びます。

Mute（ミュート）ボタン

一時的に消音します。解除するにはもう一度このボタンを押すか、ボリュームボタンを押します（17ページ）。

CDボタン

CDを選択します（20ページ）。

AUX（外部入力切換）ボタン

AUX INに接続された機器を聞くときにこのボタンを押して入力を切り換えます（17ページ）。

Presets（プリセット）ボタン

ラジオの放送局を登録したり、登録した放送局を選ぶときに使用します（28ページ）。

Stop（ストップ）ボタン

1回押すとCD、MP3CDの再生が停止します（21ページ）。
※ディスクを取り出さない限り、前回再生を止めた近辺から再生を始めます（リジューム再生）。

CD再生ボタン

CDの再生/一時停止をするときに使用します（20ページ）。

Play Mode（プレイモード）ボタン

CD、MP3CDを聴いているとき（25ページ）

CD、MP3CDに収録されている曲をランダム再生、あるいは繰り返し再生を選びます。

ラジオを聴いているとき（28ページ）

トークラジオモードのオン／オフをします。

本体操作ボタンの名称と使い方

Seek／Track(シーク/トラック)ボタン

CD、MP3CDを聴いているとき(22ページ)

CD、MP3CDのトラックやファイルを選ぶときに使用します。

ラジオを聴いているとき(27ページ)

1回押すと十分受信できる強さの電波の放送局を自動的に選局します。

Volume(ボリューム)ボタン

音量を調節するときに使用します(17ページ)。

CD再生ボタン

CDの再生/一時停止をするときに使用します(20ページ)。

Stop(ストップ)ボタン

1 回押すと CD、MP3CD の再生が停止します。

※ディスクを取り出さない限り、前回再生を止めた近辺から再生を始めます(リジューム再生)(21 ページ)。

Seek / Track
Play/Pause
Stop
Volume
Tune / MP3
Play Mode
Menu
Options
Adjust

Menu(メニュー)ボタン

システムセットアップメニューで設定する項目を選ぶときに使用します(29ページ)。

表示部

操作時のいろいろな状況を表示します。

Tune／MP3(チューン/MP 3)ボタン

CD、MP3CDを聴いているとき(24ページ)

押し続けると早送り、早戻しができます。MP3CDの場合は、小刻みに押すと、フォルダーを選ぶことができます。

ラジオを聴いているとき(27ページ)

小刻みに押すか、あるいは押し続けてお好きな放送局を選びます。

Play Mode(プレイモード)ボタン

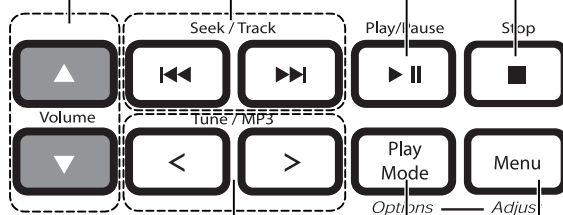
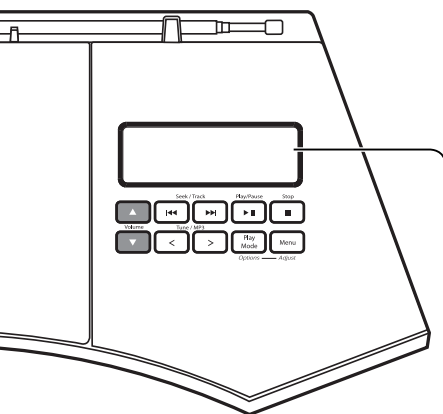
CD、MP3CDを聴いているとき(25ページ)

CD、MP3CDに収録されている曲をランダム再生、あるいは繰り返し再生を選びます。

ラジオを聴いているとき(28ページ)

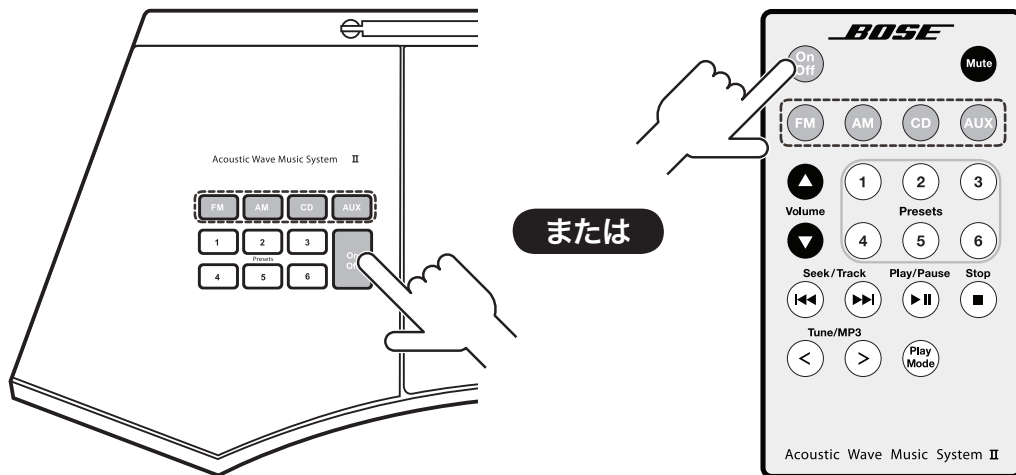
トークラジオモードのオン／オフをします。

システムセットアップメニューを表示するときに使用します(29ページ)

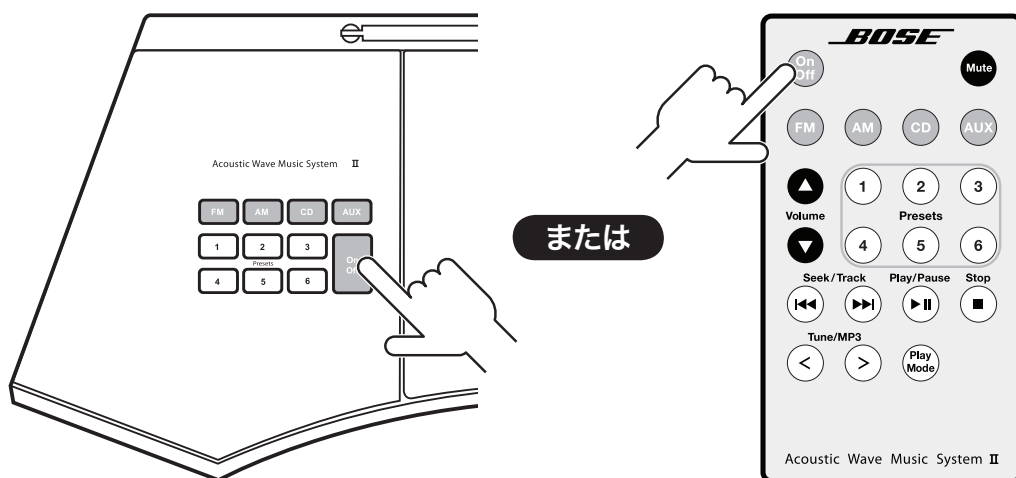
システムセットアップメニューが表示されているときは、再生するメニューを変更するときに使用します。

基本の操作

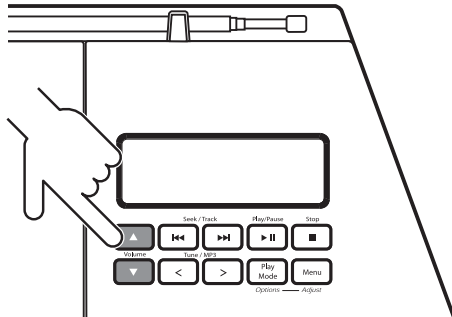
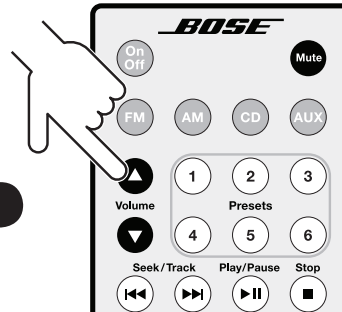
電源のオン／オフのしかた

電源の入れ方

または

の部分のどのボタンを押しても電源が入ります。

電源の切り方

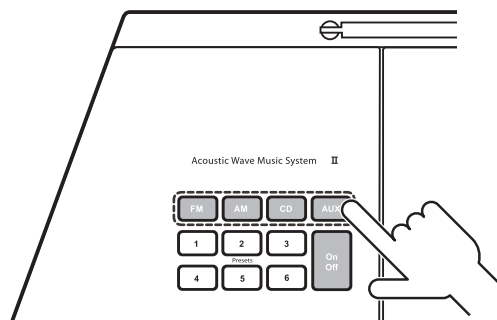
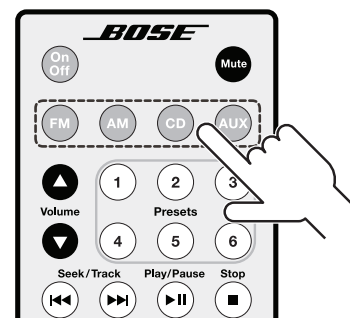
または

基本の操作

音量調節のしかた

最小レベル：0
最大レベル：99

※ 電源が入っていないときでもあらかじめ音量の調節ができます（20〜70の範囲）。

●一時的に音を消す（ミュート）

※ リモコンの Mute（ミュート）ボタンを押すと一時的に音が止まります。解除するにはもう一度同じボタンを押すか、ボリューム▲ボタンを押します。ミュート中にボリューム▼ボタンを押して音量を下げておくこともできます。

音源（FM／AM／CD／AUX）の選択

聞きたい音源（FM/AM/CD/AUX）のボタンを押します。

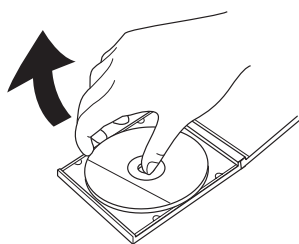
※ AUXに接続されている外部機器を聴く場合は、必ず外部機器の電源を入れて音源を再生しておいてください。本体の AUX ボタンを押しても外部機器の電源は入りません。

ディスクの取り扱いについて

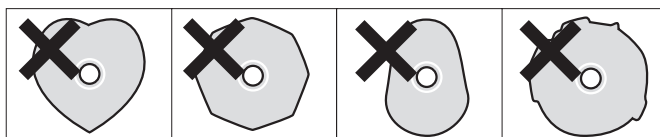
● 結露現象について

冬、暖房のきいた部屋の窓ガラスに水滴がつき、くもってしまう現象、これが結露現象です。冷えきった状態のまま暖かい部屋に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、光学系のレンズ(ピックアップのレンズ部分)に露が生じ(結露)、レーザーによるディスクからの信号読み取りができず、動作しないことがあります。このような現象が生じた場合は、周囲の状況にもよりますが、電源を入れ1時間程放置すると結露が取り除かれ正常に動作するようになります。

● ディスクの取り扱いについて

ディスクの表面にキズをつけないよう大切に扱ってください。
ディスクのセットは、必ずレーベル面を上にして、セットしてください。

ディスクをケースから取り出すときは、必ずケースの中心を一度押して、ディスクの外周部分を手ではさむように持って取り出してください。

ディスクを持つ場合には、演奏面（ラベルの印刷していない面）に触れないように、両端をはさんで持つか、中央の穴と端をはさんで持ってください。

・ レーベル面に紙などを貼ったり、ボールペンなどで文字を書かないでください。
・ 再生が終わったディスクは、必ずケースに入れて保管してください。そのままディスクを放置するとそりやキズの原因となります。
・ ディスクにセロハンテープやレンタルディスクのシールなどをはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。
・ ディスクは、2枚以上重ねて入れたり、続けて入れたり、ディスク以外のものを入れないでください。故障の原因になります。
・ 市販のディスクスタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因となることがあります。
・ ハート型や八角形など特殊形状のディスクは、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。

ディスクの取り扱いについて

● ディスクの表面はいつもきれいに

ディスクの表面を拭くときは必ずディスク専用のクリーナーを使用して右の図のように拭いてください。

※ ディスクは、プラスチック製です。従来のアナログディスク用のクリーナーや帯電防止剤、ベンジン、シンナー、アルコールなどの揮発性の薬品を使用すると、ディスクの表面に悪い影響を与えますので絶対に使用しないでください。

● ディスク保管上の注意

ディスクはケースに入れて正しく保管しましょう。ディスクを大切にするため次のような場所に置くことはさけてください。

- 直射日光の当たる場所。
- 暖房器具の近くや空調の吹き出し口などの高温になる場所。または高温になる物の上。
- 車の中などの高温になる場所。
- 投光照明機などの発熱物の近くの場所。
- 極端に寒い場所。
- 湿気や水分のある場所、プール、浴室などの湿気の多い場所。
- 屋外や直接水のかかるところ。

⚠注意 ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは、使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがの原因となることがあります。

● 再生対応メディア…CD／CD-R／CD-RW

※CD-R／CD-RWディスクの取り扱いについて

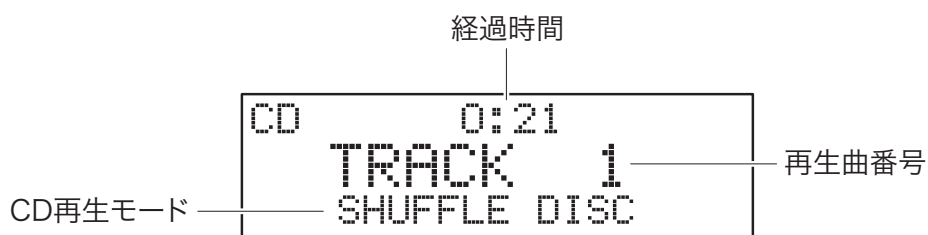
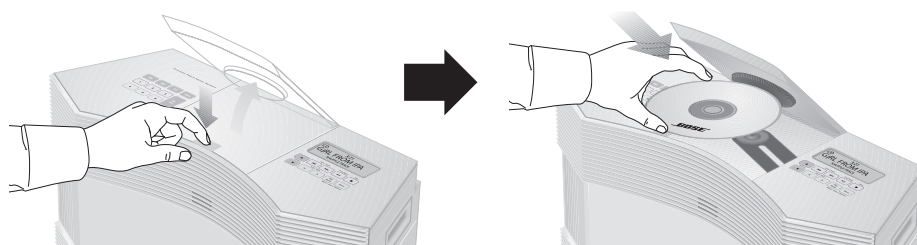
- 録音に使用したCDレコーダーやCD-R／CD-RWディスクの特性、傷、汚れなどにより再生できない場合があります。
- CD-R／CD-RWディスクの取り扱いにあたっては、ディスクの使用上の注意を必ずお守りください。

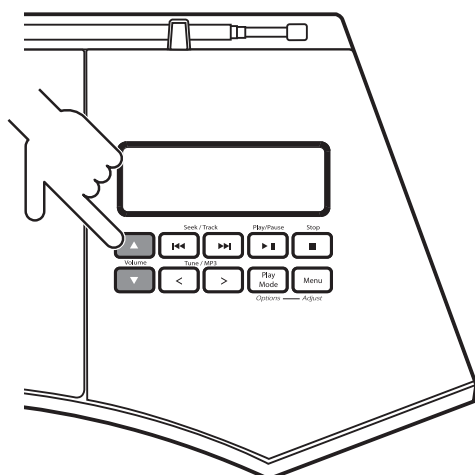
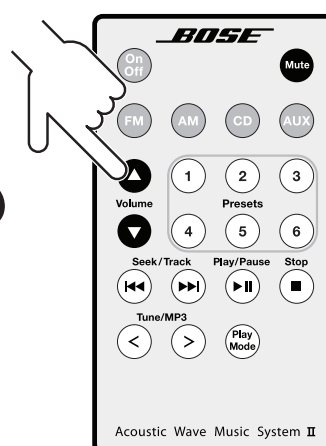
● 再生対応フォーマット…CD-DA（オーディオCD）、MP3CD

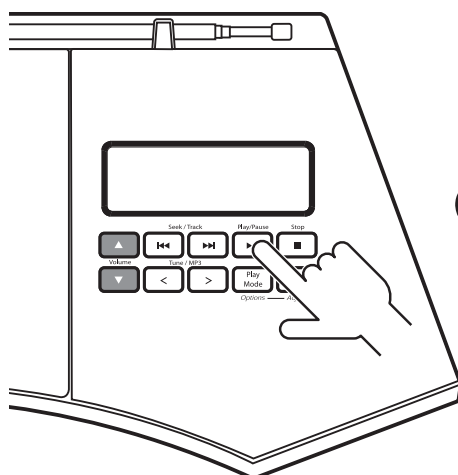
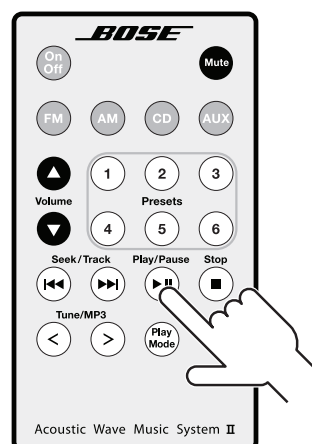
※MP3について

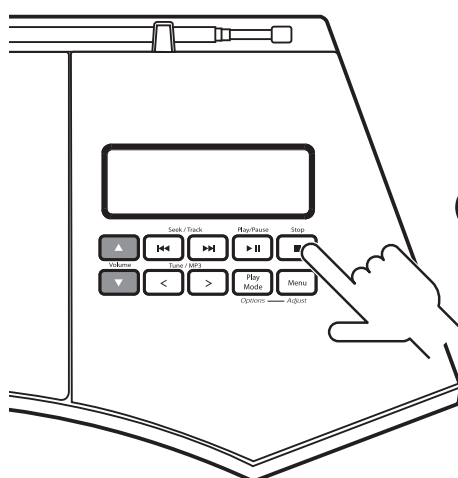
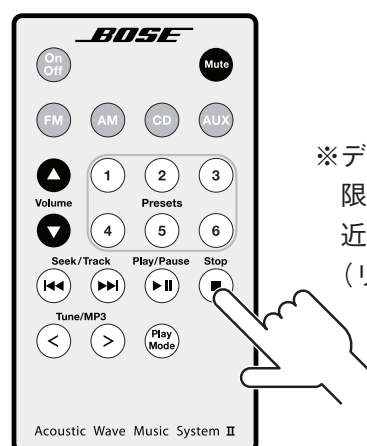
- 本機で再生可能なMP3ファイルは記録時のビットレート64kbps以上、サンプリング周波数32kHz以上です。
  推奨値：ビットレート128kbps以上、サンプリング周波数44.1kHZです。
- 全てのトラックは、ディスクアットワンス（シングルセッション）で書き込まれている必要があります。
- ディスク・フォーマットは、ISO9660に準拠してください。
- それぞれのファイル名に、“.mp3”の拡張子が付いていて、拡張子以外に“ . ”を使わないでください。

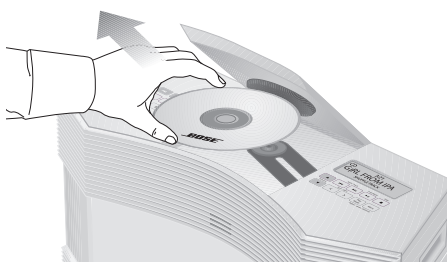
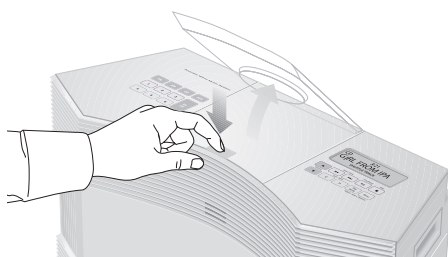
CD（コンパクトディスク）を聴いてみましょう

CD、MP3CD関連の表示内容

CD、MP3CDを演奏してみましょう

※8cmディスクもそのまま使用できます。
※ディスクはレーベル面を上にして入れてください。

●音量を調節する

CD（コンパクトディスク）を聴いてみましょう

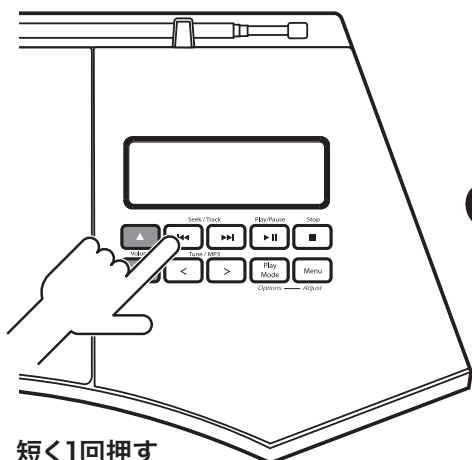
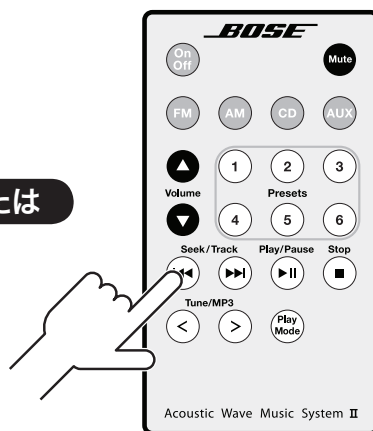
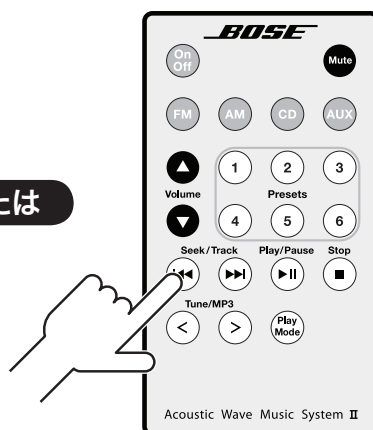
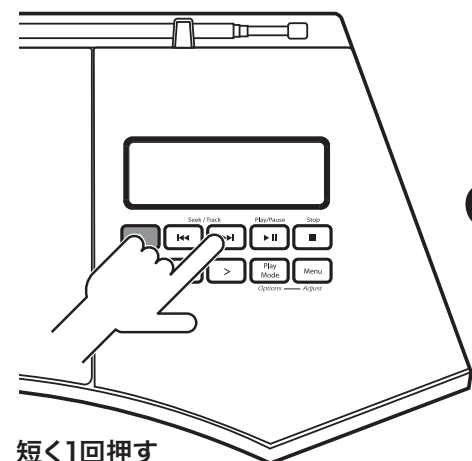
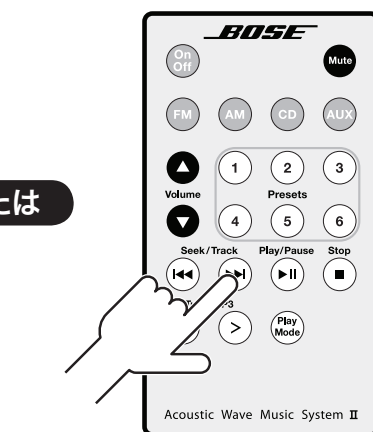
●一時停止（ポーズ）する

解除するときは…もう一度押します。

●再生をやめる

※ディスクを取り出さない限り、前回再生を止めた近辺から再生を始めます（リジューム再生）。

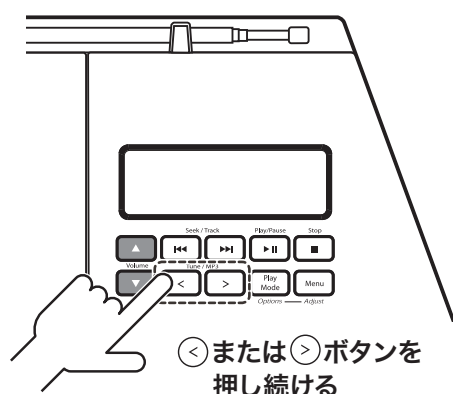
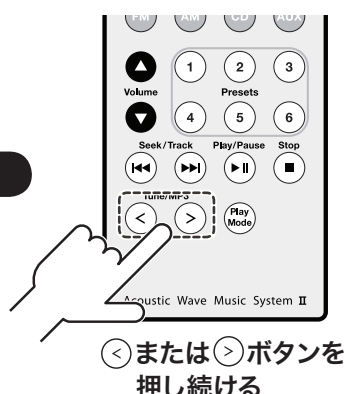
●ディスクを取り出す

⚠注意

ディスクを取り出すときは、完全にディスクが停止していることを確認してください。

CD（コンパクトディスク）を聴いてみましょう

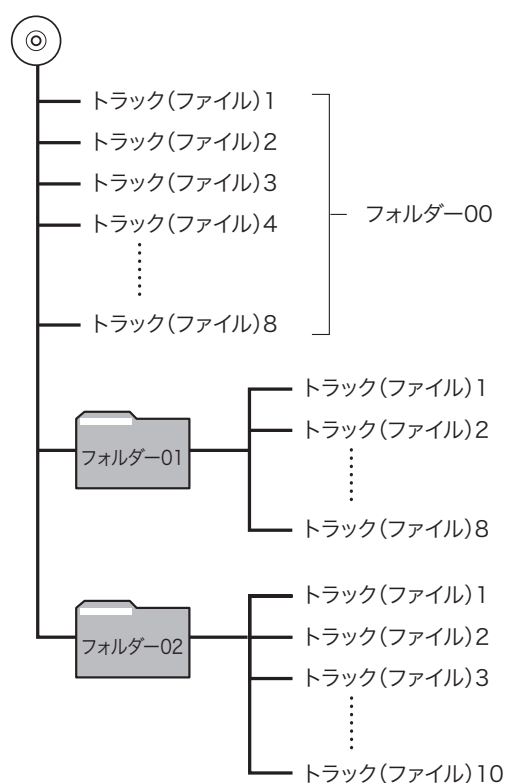
聴きたい曲を選ぶとき

※CDの1曲目の場合は、CDの最後の曲を選ぶことができます。

※CDの最後の曲のときは、CDの1曲目を選ぶことができます。

CD（コンパクトディスク）を聴いてみましょう

曲の中の聴きたい箇所をさがすには

聴きたい場所で指を離す

※MP3CDの場合、押し続けると早送り、早戻しになり、短く押すとフォルダーの選択になります。

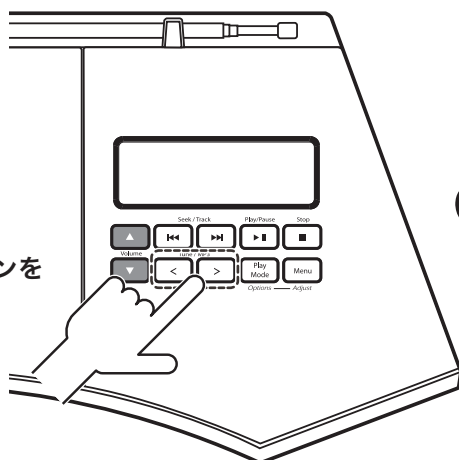
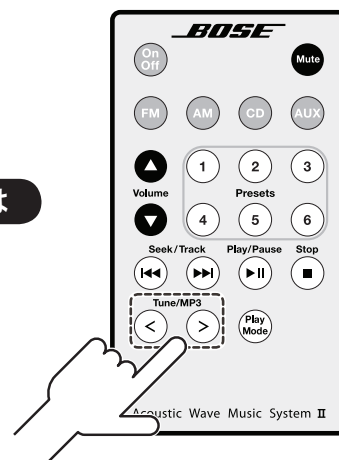
ポーズ（一時停止）中に、この動作を行うと音を出さずに聴きたい箇所をさがすことができます。この場合、表示パネルの時間を見ながら、聴きたい箇所をさがしてください。

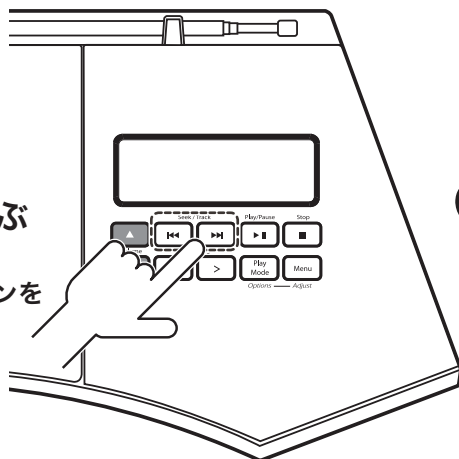
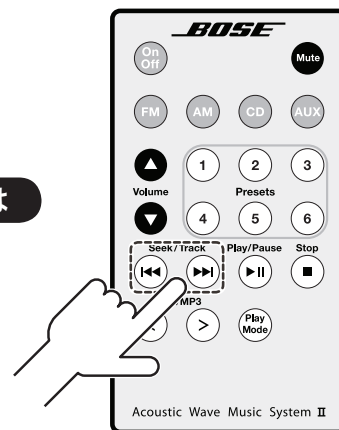
MP3CDについて

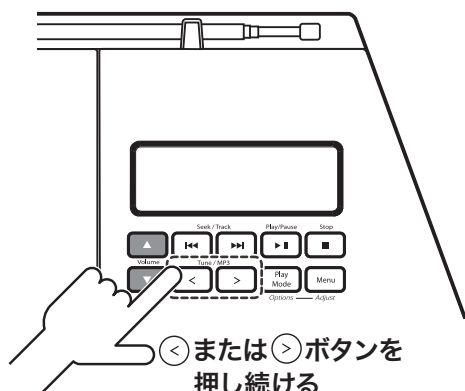
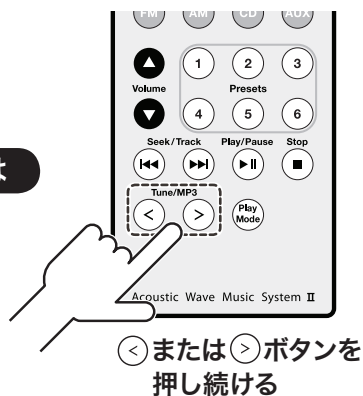
MP3CDは、1枚のディスクに音楽CD8〜10枚分もの曲を記録することができるため、聴きたい曲を探すことが大変になります。そのため何曲かを1つの入れ物（フォルダー）に入れてそのフォルダーごとに整理して曲を探しやすくすることができます。Acoustic Wave music system II もフォルダーを選ぶことができますので簡単に聴きたい曲を選ぶことができます。本機ではMP3CDファイルの再生中、ファイルに情報がある場合、アーティスト、曲名を表示部に表示します（日本語には対応していません）。アーティスト、曲名を表示しなおすには、再生中にCDボタンを押します。

CD（コンパクトディスク）を聴いてみましょう

MP3CDの選曲の方法

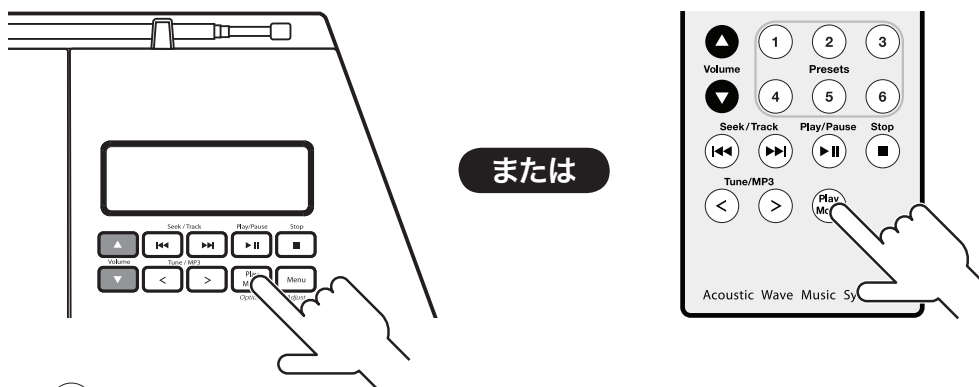
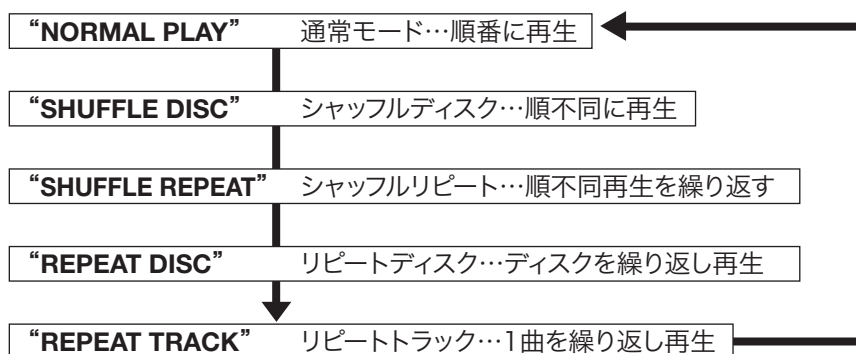
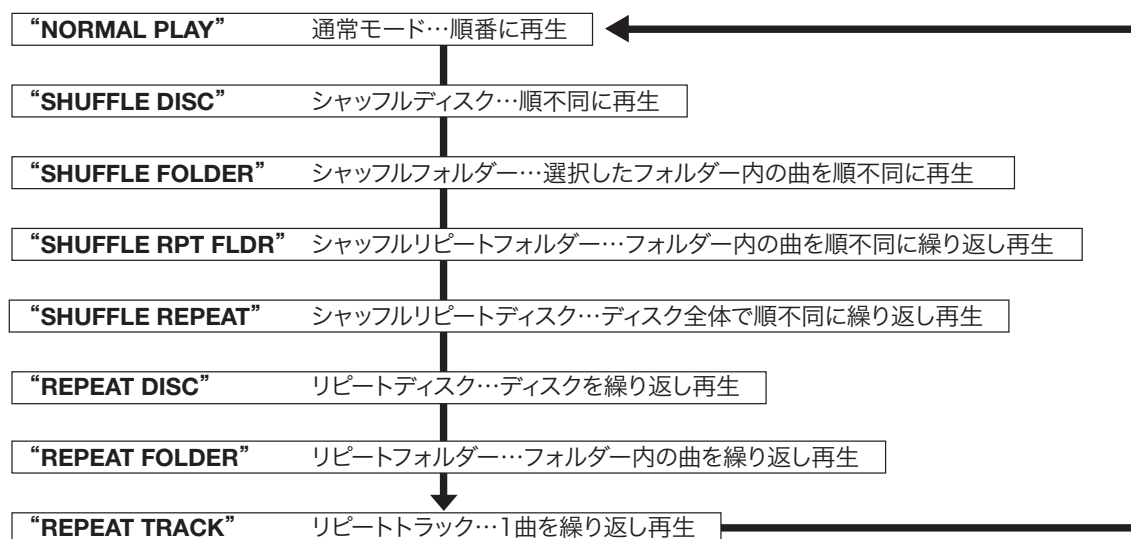
フォルダーを選ぶ

<または>ボタンを
短く1回押す

または

フォルダーの中のトラック（ファイル）を選ぶ

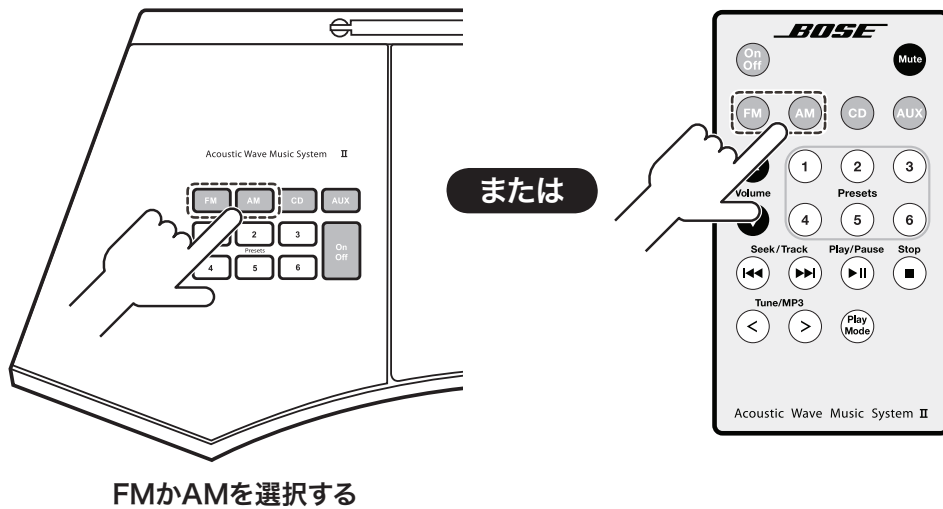
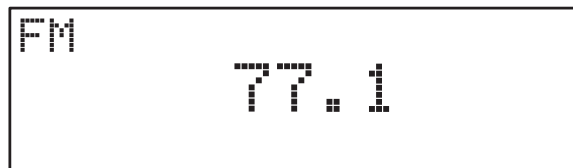
⏮または⏭ボタンを
短く1回押す

または

※押し続けると早いスキップを行います。

曲の早送り、早戻し

CD（コンパクトディスク）を聴いてみましょう

シャッフル（順不同）、リピート（繰り返し）再生について

●CDの場合

●MP3CDの場合

ラジオを聴いてみましょう

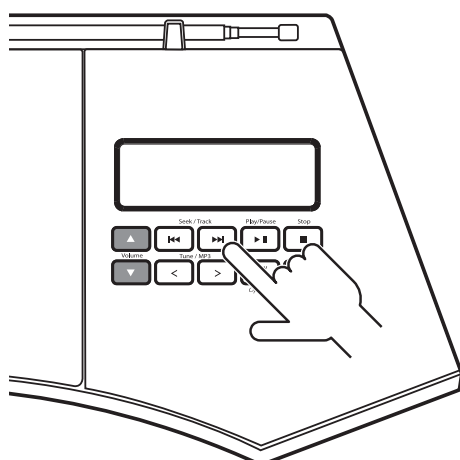
ラジオの聴き方

FMかAMを選択する

ラジオ関連の表示内容

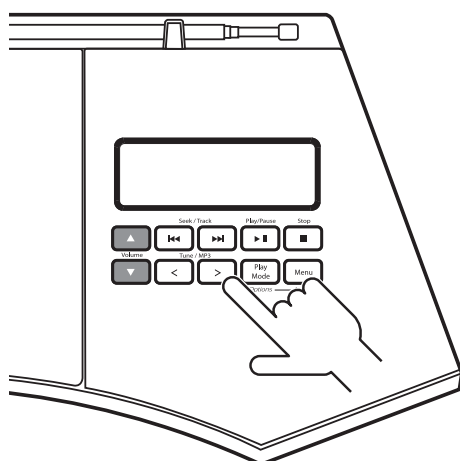
●例えばFM放送を受信しているとき

ラジオを聴いてみましょう

放送局の選局のしかた

●自動受信

⏮または⏭ボタンを
短く1回押す

※十分受信できる強さの電波の放送局を、自動的に選局します。

●手動受信

<または>ボタンを
短く小刻みに押す

※自動受信で選局できない放送局を受信するときに行います。

⚠注意

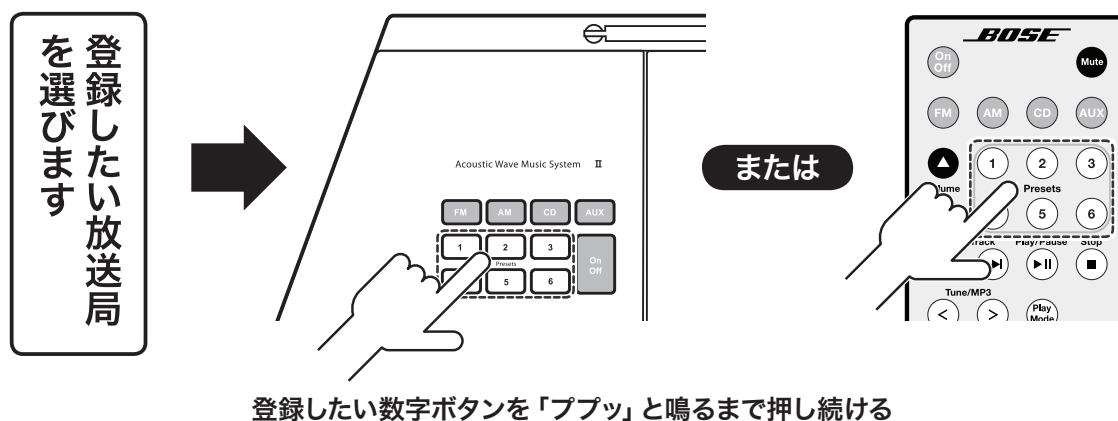
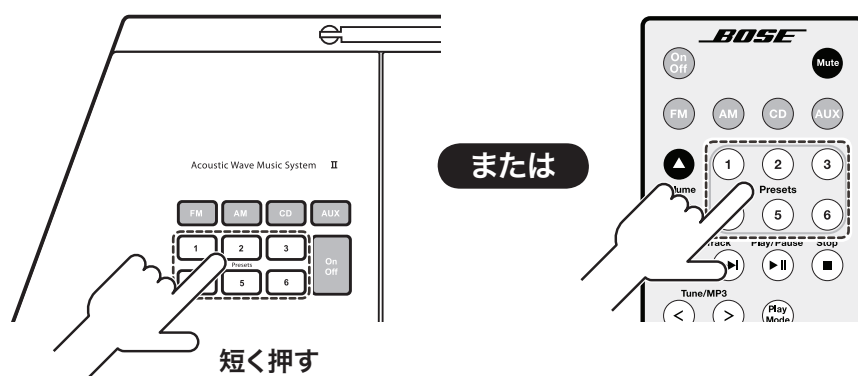
- AM受信の場合、内蔵のAMアンテナを使用します。本体の向きを変え、受信感度を調節してください。
- FM受信の場合、ロッドアンテナをいっぱいまでのばし、最もよく受信できる角度に調節してください。内蔵アンテナで満足な受信感度が得られない場合は、外部アンテナを接続すると感度が改善されることがあります。

ラジオを聴いてみましょう

放送局の登録（放送局のプリセット）

● 放送局の登録（放送局のプリセット）のしかた

AM、FMとも各6局ずつ放送局を登録（プリセット）することができます。

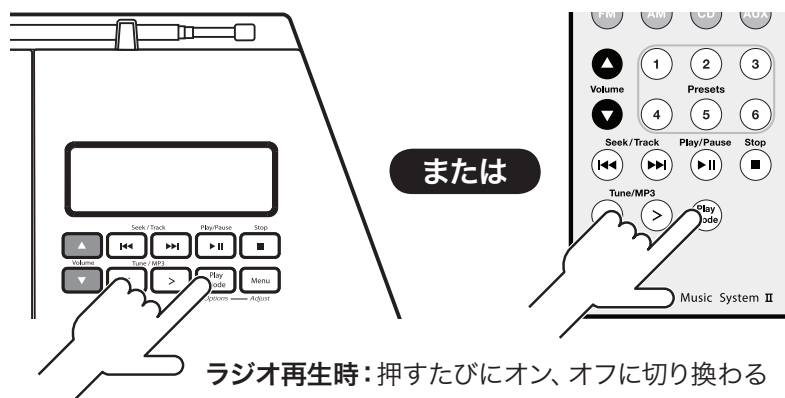
登録したい数字ボタンを「ププッ」と鳴るまで押し続ける

● 登録した放送局の呼び出しのしかた

⚠ 注意

押し続けると現在聴いている放送局が、押した番号に上書きされますのでご注意ください。

その他の機能

● トークラジオモードについて

低音を誇張したラジオ番組などで、トーク番組やニュース番組の男性アナウンサーの声がモゴモゴはっきりしない場合があります。新しく搭載されたトークラジオモードをオンにすることによって、低音を誇張された番組のアナウンサーの声を聞き取りやすくします。

ラジオ再生時：押すたびにオン、オフに切り換わる

システムセットアップメニューについて

通常、本機のシステムは標準的な設定をして工場から出荷していますが、お客様の使い方に合わせて設定を変更することができます。設定が変更出来る内容は「システムセットアップ内容一覧」(30ページ)をご覧ください。

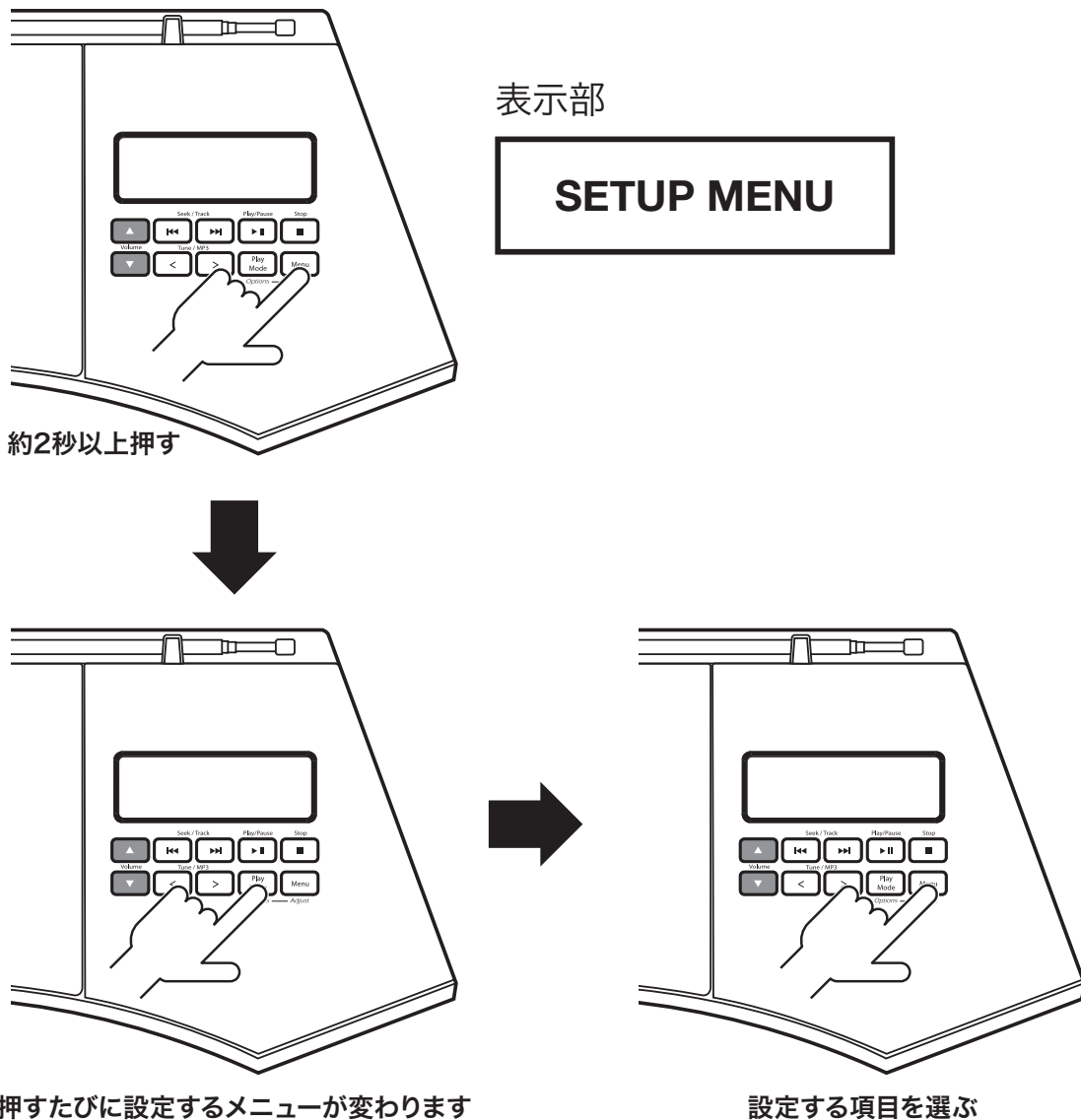
システムセットアップメニューを表示する

表示部

SETUP MENU

約2秒以上押す

押すたびに設定するメニューが変わります

設定する項目を選ぶ

、 以外のボタンを押すか、10秒以上何もしないでおくと自動的に決定されます。

システムセットアップメニューについて

システムセットアップメニュー内容一覧

項目	表示部	選択項目 （太字は工場出荷時）	内容
ヘッドホンジャック	HEADPHONES JACK：	**HEADPHONES**, LINE OUTPUT	背面のヘッドホンジャックの仕様を変更します。 初期設定では、ヘッドホンを使うように設定されています。このジャックにヘッドホンのプラグを差し込むと、セットから音が出なくなり、セットのボリュームに連動した音声信号が出力されます。 設定を**LINE OUTPUT**にすると、このジャックにプラグを差し込んでもセットからの音は消えなくなり、セットのボリュームに連動しない音声信号が出力されます。外部に録音機器などを接続して録音したり、アンプとスピーカーを接続したり、アンプ内蔵のスピーカーを接続して使用するときにこの設定に変更します。
自動連続再生	CONTINUOUS PLAY：	**NO**, FM, AM, AUX	CD、MP3CDの再生が終了すると、自動的に他の音源（FM, AM, AUX）に切り換えて音楽などを続けて楽しむことができます。 メニューキーを押して**NO**（連続再生しない）、**FM**、**AM**、**AUX**に切り換えます。
BOSE link設定※			
システムリセット	RESET ALL：	**NO**, YES	工場出荷時の設定にもどします。 1．変更した設定を工場出荷時に戻す場合**YES**を選びます。 2.「PRESS 2 TO CONFIRM」というメッセージが表示されているときに"Preset 2"キーを押します。 3.“RESET COMPLETE”が表示されたのち、約2秒後に自動的に本機の電源が切れます。 注意：リセットすると、FM、AMの放送局のプリセットも工場出荷時の状態にもどりますので、再び登録しなおしてください。

※現在日本においては使用しません。

故障かな? と思ったら

問題	解決方法
本体が機能しない	・ 電源コードがしっかりとコンセントに差し込まれているか確認してください。
音がしない	・ 音量を上げます。 ・ Muteボタンを押してミュートを解除します。 ・ CDが正しくセットされているかを確認してください。 ・ AUXに接続されている外部機器の接続を確認してください。 ・ AUX IN端子に接続されている外部機器を聴きたい場合はAUXを選択してください。 ・ AUX IN端子に接続されている外部機器の電源をオンにしてください。 ・ ヘッドホンがつながれている場合は抜いてください。
リモコンが効いたり 効かなかったりする 又は全く効かない	・ リモコンの電池の極性が正しくセットされているか確認してください。 ・ 必要に応じて電池を交換してください。 ・ リモコンを本体に近づけて操作してください。 ・ 照明や日光による影響がないか、レンズが汚れていたり埃がついたりしていないかを確認してください。 ・ 場所を変えて操作してください。
AM受信が悪い	・ 本体の向きを変えながら受信感度の良いところを探してください。 ・ 本体をテレビ、冷蔵庫、蛍光灯、ハロゲンランプ、調光器等の電気ノイズを発生するものから離してください。 ・ AM放送の電波が弱い地域の可能性があります。
FM受信が悪い	・ 外部アンテナを使用していない場合はロッドアンテナをいっぱいまでのばし最もよく受信できる角度に調節してください。 ・ それでも受信が改善されない場合は付属のFMアンテナを使用してください。 ・ 付属のFMアンテナを使用しても改善されない場合は、外部アンテナが必要になります。
CDが作動しない	・ 表示部の左上にCDが点灯しているか確認してください。点灯していない場合はCDボタンを押してください。 ・ CDが正しくセットされているか確認してください。 ・ CDが汚れているか埃がついている可能性があります。19ページを参照しながらCDをクリーニングしてください。 ・ CDが破損している可能性があります。別のCDで再生してみてください。 ・ 本機ではDVDディスクは再生できません。
表示部に 何も表示されない	・ 電源が正しくつながれているか確認します。
“NO DISC”と 表示される	・ CDが正しくセットされているか確認してください。
“DOOR OPEN”と 表示される	・ ディスクカバーをしっかり閉めてください。
“NOT PLAYABLE”と 表示される	・ そのディスクは対応していません。
“TRACK[track #]ERROR” と表示される	・ 他のトラックに変えてPlayボタンを押してください。
音とびする	・ CDをクリーニングしてください。 ・ 振動している場所で使わないようにします。

お問い合わせ先

故障および修理のお問い合わせ先
ボーズ株式会社　サービスセンター
お客様専用ナビダイヤル 0570-080-023
PHS、IP電話からは、Tel 03-5489-1124へおかけください。
〒206-0035 東京都多摩市唐木田1-53-9 唐木田センタービル

製品等のお問い合わせ先
ボーズ株式会社　ユーザーサポートセンター
お客様専用ナビダイヤル 0570-080-021
PHS、IP電話からは、Tel 03-5489-0955へおかけください。

仕　様

システム構成	CDプレーヤー／AM・FMチューナー内蔵　一体型サウンドシステム
FM受信周波数	76.0〜90.0MHz（100kHzステップ）
AM受信周波数	531〜1629kHz（9kHzステップ）
外部入力	アナログ音声入力1系統（RCAジャック）
外部出力	φ3.5mmステレオミニジャック（ヘッドフォン／ラインアウト切換式）
再生対応メディア	CD／CD-R／CD-RW
再生対応フォーマット	CD-DA／MP3 CD （ビットレート64kbps、サンプリング周波数32kHz以上、128kbps／44.1kHz以上推奨） MP3 CDについて ・全てのトラックは、ディスクアットワンス(シングルセッション)で書き込まれていること。 ・ディスク・フォーマットは、ISO9660に準処していること。 ・それぞれのファイルに、“.mp3”の拡張子が付いていて、拡張子以外に“．”を使っていないこと。
電源電圧	AC100V 50／60Hz
最大消費電力	60W
待機電力	1.5W以下
外形寸法	459（W）× 272（H）× 189（D）mm
質量	6.5kg（本体のみ）
付属品	カード型リモコン／FMアンテナ／電源コード φ3.5mmステレオミニプラグ付オーディオケーブル

保　証

保証の内容および条件は付属の保証書をご覧ください。

ボーズ株式会社　http://www.bose.co.jp/
〒150-0044　東京都渋谷区円山町28-3 渋谷YTビル

●仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。
●弊社取扱以外の製品については、保証の責任を負いかねますのでご注意ください。

OM-1340-L
11・12 (B)